

2014年5月8日

各位

## 積水ハウス株式会社

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

**世界700万人が体験した“純度100%の暗闇の世界” 関西初上陸から1年  
初の“ものづくり”を取り入れた一周年 期間限定プログラム、5月9日正午チケット発売開始  
～家族にとって大切な“健康”について考えるDID「対話のある家」特別篇～**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則、以下「積水ハウス」)は、開設一周年を迎えた情報発信拠点「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内)で、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(本社:東京都渋谷区、代表:金井真介、以下DID)との共創プログラム「対話のある家」特別篇を“一周年 期間限定プログラム”として6月5日(木)から6月30日(月)まで開催します。実施に先立ち、5月9日(金)正午よりチケットの発売をWEBで開始します。特別篇「まっくらな中で健康な家づくりにチャレンジ!」は「健康」をテーマに、参加者が“家族”になり、暗闇の中で協力し合いながら“ものづくり”を行います。

「対話のある家」は“暗闇のソーシャルエンターテインメント”を体験する、国内2ヵ所目、関西初の長期開催会場として昨年4月にオープンしました。世界で700万人が体験したDIDの共通コンセプト「純度100%の暗闇」「チームで体験」「視覚障がい者によるアテンド」のもと、住まいや暮らしに焦点を当てた独自プログラムをDIDとの「共創」により共同開発。参加者が“家族”になり、生活の様々なシーンを体験します。これまで1年間で約4,800人が来場し、対話の大切さ、人の温かさ、五感で感じる心地よさ、家族の絆など、新たな発見や新鮮な気づきがあったという声が寄せられています。(詳しくは、2ページ参照)

### ■視覚以外の感覚で、家族の「健康」について考える。

住ムフムラボでは、開設一周年の記念企画として「健やかへのヒントは、家にある」をテーマに研究ワークショップやイベントを開催しています。「対話のある家」の期間限定プログラムのテーマも、家族にとって大切な「健康」。普段の日常生活ではなかなかじっくり向き合えない、自分と家族の健康や、健やかに暮らし続けるためのアイデアを考えます。普段頼りがちな視覚以外の感覚を研ぎ澄まし、初めてプログラムに取り入れた“ものづくり”を共同で行うことで、参加者が家族として一体感を高め、新たなコミュニケーションを生みます。

なお、引き続き7月3日(木)からは夏のプログラムがスタート。「僕たちの夏休み」をテーマに、“田舎のおじいちゃんの家”を再現、親子で体験していただきたい内容になっています。



## 参加者の声

体験者からは、「新たな発見があった」「新鮮な気づきがあった」など、好評の声が多く寄せられました。「対話のある家」が“学びの場”となっていることがうかがえます。

### < 「対話のある家」・“学びの要素” >

#### ■対話の大切さ・人の温かさ

- ・声かけ、人のぬくもりの大切さ、ありがたさを、強く感じました(30代女性)
- ・会話というコミュニケーションの大切さを感じました(40代男性)
- ・自分の意見をはっきりと誠実に伝えることが、人間関係の中で大切なことであると感じました(30代女性)
- ・人との触れ合い、コミュニケーションがとても楽しくてほっとする時間でした(20代女性)
- ・人と人との触れ合い、声かけの大事さがとてもよくわかりました(40代男性)
- ・他人の声や存在感は、安心できるものだなあと感じました(30代女性)

#### ■五感で感じる心地よさ

- ・目以外で感じ取ることが多いことに気づきました(40代女性)
- ・材質や温度などが、いつもより気持ちよく感じられました(30代女性)
- ・五感を使えば、豊かに感じ取れるということを知られました(30代男性)

#### ■家族のきずな

- ・家に家族がいる大切さをあらためて感じました(20代女性)
- ・家と人のあたたかさや思いやりを感じることができました(30代女性)
- ・家族と一緒に暮らすことは、体験の共有なのかもしれない(20代男性)

### 教育関係機関や企業など、研修や啓発目的の場として活用されるケースも

「対話のある家」は高校、大学の教育プログラムや教員研修、社員啓発プログラムに活用されるケースも生まれています。積水ハウスは長年「いつもいまが快適」という生涯住宅思想のもと、ユニバーサルデザイン研究や啓発活動に取り組んできました。「対話のある家」も同様に、多様性を尊重し“誰もが暮らしやすい社会”の実現に向け、暗闇における視覚障がい者(アテンド)やチーム内のコミュニケーションを通して、体験者が互いに協力し合う、思いやる大切さに気づき、関心を持つことができる様々な“学びの場”として提供して参ります。

## 共創研究への活用

業界初のオープンイノベーション拠点と位置づける「住ムフムラボ」内ならではの試みとして、暗闇空間を活用した研究や、DIDアテンド(視覚障がい者)を始めとする一般の生活者参加型の共創研究など、多様な視点を活かす研究ワークショップにも着手。触るだけでカギを閉めたかどうかを確認できる、積水ハウスオリジナル「しめ忘れお知らせキーⅡ」が商品化に至るなど、これからの暮らしを異なる立場から共に考える、新しい研究スタイルに取り組んでいます。

#### 1. 一般生活者(住ムフムラボ/研究メンバー)による評価検証

住ムフムラボの研究メンバーから募集した参加者30名(※)に暗闇空間に入ってもらい、試作品のカギを触ってもらい、「鍵を掛けたかどうか分かりやすいか」「鍵を触った際の触り心地はよいか」について、グループ対話形式で評価していただきました。

※:1組5名の検証を6回繰り返し

#### 2. 視覚障がい者による評価検証

DIDアテンド(全盲者)14名に試作品のカギを触ってもらい、「鍵をかけたかどうか分かりやすいか」「便利だと思うか」について評価していただきました。



一般生活者(住ムフムラボ/研究メンバー)による評価検証



視覚障がい者による評価検証

## 共創プログラム「対話のある家」◀第5回：一周年 期間限定プログラム、夏休みプログラム▶ 概要

- ・開催場所 : グランフロント大阪 北館4階  
積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」
- ・開催期間 : 2014年6月5日(木)～6月30日(月)  
一周年 期間限定プログラム「まっくらな中で健康な家づくりにチャレンジ！」  
2014年7月3日(木)～8月4日(月)  
夏休みプログラム「僕たちの夏休み」
- ・チケット販売 : 2014年5月9日(金)正午から販売開始
- ・定休日 : 火曜日・水曜日
- ・所要時間 : 70分
- ・参加人数 : 1グループ・6人まで(完全予約制)
- ・参加料金 : 大人3,500円/学生2,500円/小学生1,500円 (税込)
- ・購入方法 : ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約  
<http://www.dialoginthedark.com/>  
(住ムフムラボHPのトップページにもリンクを掲載しております)
- ・チケットに関するお問合せ先 : 0570-006-506 (IP電話からは0986-46-2672)  
(火曜日～土曜日12～18時、月曜日・日曜日・祝日休業)

### これまでの開催実績

第1回から第4回までの累計で約4,800人の幅広い年代の方々にご参加いただいています。

- ・開催日数:159日、参加人数:約4,800人(累計)

<参加者データ>

- ・性別:男性44%、女性56%
- ・年代:10代5%、20代27%、30代32%、40代22%、50代11%、60～70代3%

### ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)について

DIDは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により誕生。「純度100%の暗闇」、「チームで体験」、「視覚障害者によるアテンド」という世界共通の3つコンセプトのもと、信頼とコミュニケーションをベースにした「ソーシャル・エンターテイメント」であると共に、視覚障がい者でないと出来ない全く新しい「職能・職域開発プロジェクト」です。世界30カ国・約130都市で開催され700万人以上が体験。日本では、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが東京・神宮前で長期開催しています。「住ムフムラボ」での「対話のある家」はDIDとの「共創」による、関西初の長期開催プログラムです。

### 積水ハウスとの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」、「関係性の回復」、「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」を通じ、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供しています。さらに、住まいの快適性を深化させる研究や、「コミュニケーション・チームビルディング・リーダーシップ」の養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。